

「かめさんくらぶ」

「幼児教育の質の向上」「幼保小の連携・接続」に向けて

幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の「幼保小架け橋プログラム」が出され、全国各地で取組が進められています。幼児教育が重要視され、幼児教育の質の向上や幼児教育と小学校教育の円滑な接続が求められています。

高田幼稚園では、一人一人を大切に、主体性を育む幼児教育に努めてまいりました。幼稚園・保育園・認定こども園等におけるこれからの幼児教育について、学び合いたいと願い、研究保育ではない「ふつうの日」を公開します。また、見えにくい幼児教育を担当が説明し、ともに語り合い学び合うために『ウエルカメトーク』を設定いたしました。

小学校、中学校の先生方にも子供たちの様子を見ていただき、0歳から18歳までの学びの連続性を踏まえ、これからの幼保小の接続「架け橋プログラムの推進」などを皆さんと考えていけたらと思っております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

公開日の流れ

時間	子供の生活	参観
8:30～9:00	登園、支度	フリー参観①
9:00～11:30	いろいろな活動	
11:30～13:30	給食準備、給食 休憩	『ウエルカメトーク』 (さくら組教室で) ※45分程度
13:30～14:10	学級での活動	フリー参観②
14:10～14:30	降園準備、降園	

☆参観については、ご都合のつく時間帯でかまいません。

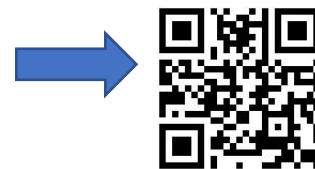
☆かめさんくらぶでは、全ての学級の公開をしています。

☆今年度からの『ウエルカメトーク』！にぜひ参加しませんか。
見えにくい保育を語りあいましょう！
お待ちしております！

令和6年度 「ウエルカメトーク」実施学級

月	日	曜	ウエルカメトーク	月	日	曜	ウエルカメトーク
5	16	木	まつ組(5歳児)	11	13	水	もも組(3歳児)
6	20	木	うめ組(4歳児)	12	19	木	まつ組(5歳児)
7	18	木	もも組(3歳児)	1	16	木	うめ組(4歳児)
9	19	木	まつ組(5歳児)	2	20	木	もも組(3歳児)
10	17	木	うめ組(4歳児)				

※公開日が変更になった場合は、HPでお知らせします。



その他

☆ 会場 上越市立高田幼稚園
(上越市大手町5-37)

☆ ご不明な点は、担当者までお知らせください。
担当：教頭 大島章子
電話：025-523-2895

「幼保小の架け橋プログラム」って

Q 1 「幼保小の架け橋プログラム」って、何？

A 令和4年度から始まった文部科学省の事業です。

5歳児から小学校1年生の2年間で「架け橋期」とし、子どもに関わる大人が**立場の違いを超えて**連携・協働し、「架け橋期」にふさわしい**主体的・対話的で深い学びの実現**を図り、多様性に配慮した上で、全ての子どもに**学びや生活の基盤を育む**ことを目指します。



幼稚園や認定こども園、保育園、小学校などの施設の違いや公立、私立の設置者の違いを超えて、子供たちの未来の基盤を育んで行くために大切なプログラムですね。また小学校指導要領の総則にも教育課程の編成に向けては、学校段階等間の接続が示されていますね。

Q 2 架け橋プログラムのカリキュラムは、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムとどう違うの？

A ○アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムは、

- ・5歳児後半から1年生の4月～5月までのカリキュラム。
- ・5歳児のカリキュラムは小学校の前倒しのような内容のところが多い。
- ・1年生のカリキュラムは“小学校に慣れる”ためのものになっていることが多い。
- ・園と小学校がバラバラに作成し、互いのカリキュラムを見るだけになっていることが多い。

○架け橋プログラムのカリキュラムは、

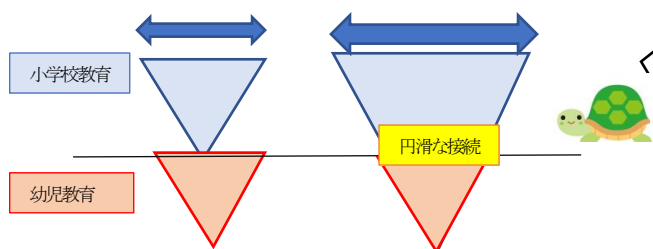
- ・幼児・児童の学びや育ちを理解し合い、期待する子供像やそのために大切にしたいことを共有したうえで、主な教育課程や予想される活動をデザインしていく。
- ・園や小学校で実践し、互いに振り返り、共有することで、幼児教育・小学校教育の質の向上を図る。



カリキュラムを作成して終わり、担当者が代わって終わりにになってしまうのではなく、幼児教育施設と小学校が年度の途中に実践を振り返ったりカリキュラムを改善したりするような持続的・発展的な取組が大事ですね。

Q 3 幼保小接続って大切ななの？

A 小学校に入学する児童は、幼児教育施設や家庭・地域などで、様々な体験を通して学んで来ています。小学校教育を幼児教育からの延長として考え、つなぐことで子供たちをさらに伸ばしていきましょう。



小学校1年生をゼロからの接続として考えるよりも、幼保小の段差を滑らかにした接続の方が、子供たちの成長が伸びていますね。また、アメリカで実施されたペリー就学前プロジェクト（低所得者層の子について質の高い幼児教育を受けたグループと受けていないグループに分け、その後40歳までの追跡調査）の結果では、14歳での学力は受けたグループが高く、その後の年収も高くなっていたという結果もありますね。

Q 4 幼保小の段差を滑らかにするための視点は？

A 小学校で育みたい資質・能力は、「知識・技能 思考力・判断力・表現力等 学びに向かう力・人間性等」です。幼児教育施設の3要領・指針でも小学校と同じように「知識・技能の基礎 表現力・判断力の基礎 学びに向かう力・人間性等」になっており、その資質・能力の現れである「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）が示されています。その10の姿を手がかりとして、具体的な子どもの姿で幼児教育も小学校教育も進めていくことで、幼保小が共通の土台に立ち協働的な取組にすることができます。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」…①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現 です。共通の視点にして具体的な姿で対話することから始めましょう。

※10の姿は、到達目標ではありません。